

第 105 回大腸癌研究会リンパ節委員会 議事録

2026 年 7 月 2 日 (木) 10:30～11:00

広島コンベンションホール 第 2 会場 (3F 大ホール 3A) + WEB

<出席者 (敬称略)>

金光幸秀 (国立がん研究センター中央病院)、神藤英二 (自衛隊中央病院)、小川真平 (東京女子医科大学)、野澤宏彰 (東京大学)、塩澤学 (神奈川県立がんセンター)、川村純一郎 (近畿大学)、女屋博昭 (愛知県がんセンター)、池田聡 (県立広島病院)、三口真司 (県立広島病院)、渡邊 純 (関西医科大学)、須藤 剛 (山形県立中央病院)、高山裕司 (自治医科大学)、安井昌義 (関西労災病院)、高見澤康之 (事務局、国立がん研究センター中央病院)

<WEB 出席者 (敬称略)>

豊田尚潔 (栃木県立がんセンター)

<欠席 (敬称略)>

大内晶 (愛知県がんセンター)、片岡幸三 (兵庫医科大学)、吉田武史 (久留米大学)

<議事>

リンパ節委員会で検討中の 4 つの課題について、各小委員会から進捗の報告がなされた。

(1) 課題 1. N3 分類の再定義

発表 神藤先生

● 結腸癌における郭清効果インデックスの検討【ステージ別】

これまでの活動成果が報告された。

➤ 占居部位別の郭清効果インデックスの検討

- ✓ 2025 年 日本外科学会 サージカルフォーラム 発表 (優秀演題賞)
- ✓ 2025 年 Annals of Gastroenterological Surgery 誌 掲載

➤ 進行度別の郭清効果インデックスの検討

- ✓ 2026 年 日本外科学会 ワークショップ「大規模データベースと臨床試験から探る大腸癌治療の最新知見と未来展望」発表
- ✓ 2026 年 Annals of Gastroenterological Surgery 誌 掲載

今後は「直腸癌に対する郭清効果インデックスの検討」を予定。全国大腸癌登録治療例のうち、LD2 以上の側方リンパ節郭清施行例 (2014～2017 年だと約 1,000 例) を対象とする。主解析では手術先行例における TVI の検討 (占居部位毎 (Ra/Rb/P)、進行度毎 (cT/cN)、対象リンパ節分類: #251・#252・#253・#263P・#263D・#283) を予定。

新規研究立案に対しては特に異論はなく、このまま進めていただく方針となった。

- 大腸癌切除例においてリンパ節獲得個数が予後に及ぼす影響の再考【stage III】
内容に関しては前回委員会で検討済。現在論文作成中であることが報告された。

(2) 課題 2. リンパ節転移陽性基準の検討

発表 小川先生

結腸間膜 LN、直腸間膜 LN（前治療あり）、直腸間膜 LN（前治療なし）、直腸側方 LN（前治療あり）、直腸側方 LN（前治療なし）それぞれの条件における術前リンパ節診断能に関する論文のシステマティックレビュー、メタアナリシスの経過が報告された。進捗は以下の通り。

- ・結腸（高山先生）：AG Surg に accept
- ・直腸間膜（川村先生、尾川先生）：解析終了。論文執筆中。
- ・直腸側方前治療あり（川合先生、尾崎先生）：Expert Review of Anticancer Therapy に accept
- ・直腸側方前治療なし（須藤先生）：解析終了、論文執筆中。
- ・総括（小川先生）：Review 論文を投稿中。

今後、「リンパ節転移陽性基準」に関する項目を、取扱い規約へ掲載することを目指す。リンパ節転移の診断基準が明記できる点については記載をし、明記できない点は現状のエビデンスの記載のみとする。草案の作成は小川先生に検討をしていただき、リファレンスは本委員会から投稿済/ 投稿中の論文を引用していただく。（金光先生）

(3) 課題 3. 側方リンパ節アトラスの作成

発表 渡邊先生

側方リンパ節アトラスに掲載を予定する断面図において使用するシェーマ図の草案が供覧された。委員から修正変更の意見はなかったが、今後シェーマ図をメールで委員と供覧し、適宜修正を行ったうえで、イラストレーターに完成版の作成を依頼する。

各リンパ節ステーションの範囲については文章でも記載できるように準備は進めるが、規約へ載せられるとしても図（アトラス）のみの掲載となる可能性が高い。（金光先生） 後は論文化を予定。論文化したら規約改定委員会に提出する。

(4) 課題 4 副右結腸静脈周囲リンパ節の取扱いに関する検討

発表 三口先生

2026 年 3 月に研究計画書が ver 2.0 に改訂され、集積研究期間が 2 年→3 年。総研究

期間が6年→7年に延長された。目標症例数は400例であり、登録ペースからは2026年10月ころに400例に達成する見込み。CRFの提出がされれば次回委員会で主解析結果報告が可能。現在未回収CRFは119件あり、参加施設は適宜CRFの提出にご協力をいただく。

以上、4つの課題の進捗と今後の方針が提示された。今後も課題ごとに進めていく方針。

(5) 今後の方針 発表 金光先生

リンパ節委員会は規約改定委員会の下部委員会であり、規約改定を目指した検討を行う。本委員会は恒常的に続いていく予定であり、しばらくはメンバーの変更等予定はされていない。現在進行中の課題に関しては適宜進めていただくが、一通り検討が終わった課題に関しては一旦終了とする。

今後、新規の検討内容として、JCOG1410A(直腸癌側方リンパ節転移の術前診断能の妥当性に関する観察研究)のデータを用いた解析を予定。JCOGデータの二次利用は申請され承認されれば利用可能。次回委員会で具体的な検討を開始する。

(文責：事務局 高見澤康之)